



日本武尊伝承が息づく

鈴鹿市

加佐登町界限

鈴鹿市のほぼ中央に位置する加佐登町界限には、日本武尊伝承が今に息づく名所・旧跡が点在します。日本武尊といえば、奈良時代に編纂された『古事記』『日本書紀』に登場する謎多き人物。大男で戦上手だったことから、父である景行天皇に従わない者たちと戦うために九州や東国などに赴きます。ところが、東国から大和の国（現在の奈良県）への帰り道、伊吹山の神の怒りに触れたために病気になる、力尽きて能褒野で亡くなったとされます。また、この終焉の地には陵墓が築かれ、尊の魂は白鳥となって飛び去ったとも伝わります。

今回は、歴史ロマンに彩られた日本武尊伝承の地を中心に巡ります。

取材・文：中村真由美
*ヤマトタケル(フミコト)は、『日本書紀』では日本武尊、『古事記』では倭建命と表記されています。また、能褒野は『日本書紀』の表記で、『古事記』では能傾野と表記されます。今回は『日本書紀』の表記で統一しました。



加佐登神社拝殿に鎮座する日本武尊像



今回、お話を伺ったのは、大萱(おおがや) 功さん(左)と瀬古 義雄さん(右)。地域をこよなく愛する二人は、加佐登神社周囲の環境を保全する「加佐登保勝会」に所属しています。



「白鳥塚古墳」に眠る人物は？

今回の散策の起点、JR「加佐登」駅を出発した後は、ゆるやかな坂道を上ります。加佐登神社の案内板を目印に右折すると、生い茂る木々が見えてきました。加佐登神社の社叢です。日本武尊が亡くなる間際に身に着けていた笠と杖を祀ったのが始まりと伝わる同神社は、かつては「御笠殿」と呼ばれ、人々の信仰を集めてきました。大萱さんによると、30



加佐登神社拝殿



拝殿内の「日本武尊」の扁額



ムラサキツツジ ※



「白鳥塚古墳」

年前までは春の大祭が行われる4月8日になると、駅から神社に至るまでの道が大勢の参拝者であふれていたといいます。今では、ムラサキツツジの名所としても知られ、4月上旬ごろには、鮮やかな紫色の花が来訪者の目を楽しませてくれます。

ところで、日本武尊の陵墓はどこにあるのでしょうか？平安時代に編纂された『延喜式』では鈴鹿郡内に所在すると示されているのですが、江戸時代にはわからなくなっていました。諸説ある中

で、かつては加佐登神社近くの「白鳥塚古墳(県指定史跡)」が最有力候補とされてきました。実際に明治9(1876)年には、明治政府によって尊の陵墓と定められました。3年後に亀山市内にある「能褒野王塚古墳」に改定されたのです。

真偽はさておき、この「白鳥塚古墳」に関して、近年、新たな発見がありました。平成16(2004)年から翌年にかけて鈴鹿市が発掘調査を行った結果、それまで県内最大の円墳だと思われていた同



「鈴鹿フラワーパーク」



春日局が寄進した梵鐘



高神山観音寺の本堂



吉良の仁吉の追悼碑

春と秋には「鈴鹿市植木まつり」(中止の場合あり)が開催される「鈴鹿フラワーパーク」でのんびりした後には、高神山観音寺へ向かいます。同寺も日本武尊にゆかりがあり、縁起によると、弘仁3(812)年に、弘法大師(空海)が尊の神霊を仏像として祀ったのが始まりとされています。時は流れ、慶応2(1866)年の4月、同寺の裏山で、ある出来事が起こりました。桑名の穴太徳に賭

日本武尊ゆかりの古刹で死闘

古墳が、実は帆立頁式(ほなごいしき)の前方後円墳であることが判明したのです。また、従来は5世紀後半から6世紀にかけて築造されたと考えられていましたが、5世紀前半にまで遡ることもわかりました。現在、古墳入口に立つ説明板には「鈴鹿川流域を支配した首長の墳墓である」と記されていますが、地域の人々が加佐登神社と「白鳥塚古墳」を敬う気持ちに変わりはありません。有志で結成された「加佐登保勝会」や「みささぎの会」などが、



4月には神域一帯が紫色に染まる※



静寂に包まれる「白鳥塚古墳」



「加佐登調整池」

場を奪われた神戸の長吉が、吉良の仁吉や清水次郎長の子分たちの応援を得て争い、吉良の仁吉が銃弾に倒れたのです。この死闘は、後に浪曲「荒神山の血煙り」などで全国にその名を知られることになりました。今では「荒神山観音寺」の俗称で親しまれている同寺の境内には、浪曲界の重鎮、廣澤虎三(ひろさわとら)が建立した吉良の仁吉の追悼碑がたたずんでいます。また、春日局(かすがのつね)が正保4(1647)年に寄進した梵鐘も見られます。

日本武尊ゆかりの古刹で繰り広げられた死闘に思いを馳せた後は、再びJR「加佐登」駅をめざします。来た道に戻れば、歴史ロマンの余韻(よゐん)に浸りながらの散策が楽しめますが、市内を循環するコミュニティバス「CIBUS」を利用することも可能です。ただし、本数が少ないので事前に時刻表を確認しておくといでしょう。

問 鈴鹿市観光協会(月曜日定休)

TEL 059-380-5595

鈴鹿市文化スポーツ部文化財課

TEL 059-382-9031

周囲の環境保全、次世代への継承活動を続けています。

「鈴鹿フラワーパーク」で憩う

加佐登神社と「白鳥塚古墳」で、古代の謎に思いをめぐらせた後は、「加佐登調整池」に沿って西へと進みます。「加佐登調整池」は、鈴鹿川水系椎山川(しいまがわ)のほぼ中流部に位置するダム湖で、昭和58(1983)年の竣工以来、農業用水および工業用水として利用されています。ま

た、「白鳥塚古墳」にちなんで「白鳥湖」の愛称で親しまれています。

湖面に浮かぶ水鳥たちを眺めながら歩くと見えてくるのが「鈴鹿フラワーパーク」です。その広さは9.9ヘクタールで、大型遊具に加えて、カラフルな花々が植えられた広場や丘が点在し、四季を通じて楽しめる憩いの場所となっています。駐車場も整備されているため、車でお越しの方は、同園を拠点にしての散策も可能です。

※印の写真は取材先から提供していただきました